

令和元年度 奈良商工会議所青年部
提言書
「奈良の未来に向けて」



奈良商工会議所青年部

ご挨拶

私たち奈良商工会議所青年部（奈良YEG）は昭和52年の設立より今日まで商工会議所活動の一翼を担うべく、経営者としての資質向上事業や地域活性化事業など、自企業の発展が地域の発展へとつながるような事業に取り組んでまいりました。その一環として提言活動があり、奈良YEGとしては平成22年度から始まった行政や関係団体との会議を経て平成25年度に奈良市へ提言書を提出させていただきました。そして今年度2回目となる提言を行う運びとなりました。

奈良の経済はインバウンド政策などにより観光産業を中心に活発化の兆しを見せています。また今年行われる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や2025年の大阪・関西万博開催など関西圏を含め、私たちの経済を取り巻く環境には大きな期待を見出すことができます。この好循環の波に取り残されないよう経済活動を進めるとともに私たちが住まう奈良の課題解決にも同時に取り組んでいくことが重要であると考えています。

人口減少や高齢化問題は必ず直面する問題であります。また観光都市としての在り方もさらに突き詰めていかなければならないと感じています。私たちが居を構え、ビジネスの場としている奈良をより良くするために今回の提言書を作成いたしました。奈良YEG会員だけでなく多方面からのヒアリングも多く取り入れたものとなっています。この提言が奈良の未来を明るく照らし、今以上に活気あふれる都市になることを切に願っております。

結びに、この提言書の作成にあたりご支援ご協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

奈良商工会議所青年部
令和元年度会長 森本 恵史

奈良商工会議所青年部 令和元年度提言書

目次

◆ご挨拶	・・・	1
◆はじめに	・・・	3
◆提言		
① YEGバンクデータ作成による地元学生及び行政との連携強化	・・・	4
② 平城宮跡地内の使用時の申請の一本化及びその他利便性の向上	・・・	7
③ 平城宮跡新駅設置による利便性の向上	・・・	10
◆あしがき	・・・	11

[ここに入力]

はじめに

奈良YEGでは平成22年度より奈良市や奈良県の行政の方を交え、「故郷の新しい風会議」を毎年開催し、奈良を良くするための議論を交わして参りました。そして平成25年度には、奈良市に対し提言書を提出することとなりました。その後毎年継続して意見交換は続けて参りましたが、提言書の作成はそれ以来なされておりませんでした。

今年度森本会長は改めて提言活動の重要性を掲げ、提言書作成を目標に委員会活動をスタートしました。現在メンバーの7割が当時の経験が無い中、提言活動について意識調査のアンケートを実施した結果、9割を超えるメンバーが提言活動に興味を持っており、提言についても難解に感じているメンバーは3割強にとどまるなど、非常に積極的に活動を行える下地はできている状況でした。

今回提言書を作成していく中で、「一方的な提言ではなく、行政と協力し実現可能な内容にすること」「提言はあくまで手段であって目的になってはいけない」ということを共通認識として持ち、まずどのような地域を目指して行くのかを一から議論し、「住みたくなる町、訪れたくなる町」をテーマに掲げました。そして「なら奈良まつり」を通じ太く繋がれた奈良市との関係を今回の活動に活かすべく、「故郷の新しい風会議」開催を含め各担当課などとも協議を行い、行政と力を合わせて進めてまいりました。テーマに沿って議論を進めて行く中で、「観光」「教育」「生活環境」と3つの分野に大きく分け、それぞれの分野で課題解決のための新しい魅力を創造するために必要なアイデアを全メンバーから引き出し、集約し今回の提言書としてまとめることとなりました。

今回の提言内容が奈良の新しい魅力となり、人口流出問題解決の一助となること、また地域の子供達の明るい未来を創造する事で豊かで住みよい郷土作りに貢献することができると考えます。

最後に、我々の炎のように熱く燃える志を最後までご一読頂き、ご理解いただきますよう心からお願い申し上げます、はじめの挨拶と致します。

奈良商工会議所青年部
地域未来創造委員会
委員長 岡田 充貴

[ここに入力]

提言①

YEGバンクデータ作成による地元学生及び行政との連携強化

現在奈良市では高校卒業後の市外・県外への若手世代の人口流出が問題となっている。これは今後間違いなく起こる人口減少・生産人口の減少に対し、単純に大学という受け皿が十分でないことだけが課題としてあるのではなく、各企業の学生に対する周知が十分に行われていない事にも起因していると考えられる。このような状況が継続すると大阪府や京都府のベッドタウンとしての機能を維持することだけでは前述の問題には対応することが厳しい状況となることが安易に予想される。

今年度メンバーで議論を行う中で、われわれ企業が今後どのように学生との連携を強化し、奈良の企業を知り奈良で働くことが魅力的であるかを発信すべく、訪問授業や体験授業を行うことが注目され盛り上がりを見せた。また、地元高校を訪問した際に多く寄せられた声が「地元企業との関係性が無く、働くことの意義を知る機会や企業に必要とされる人材とはどういう人なのか教えて貰う機会がない」という話であった。

上記をふまえ、今年度教育のテーマで行う提言は、「YEGバンクデータ作成による地元学生及び行政との連携強化」とした。

「YEGバンク」とは、奈良YEGメンバーのデータベース（記載事項参考P6）を作成し、ホームページ上で興味のある分野や学校側が求める企業を簡単にサーチできるシステムである。そして希望に沿う職種を見つけることを可能にしているのは、奈良YEGは100名を超える多くの業種が集う経営者団体だからである。「YEGバンク」を各学校が活用することにより、われわれも学生と触れ合う機会となることだけではなく、市内で就職することへの近道となることが期待される。

ここで重要なのが各学校への周知となってくる。そこで奈良市へは「YEGバンク」の有効活用を期待する。教育委員会を通じ各学校への周知徹底及び県の教育委員会へも周知徹底を行い、このシステムの活用への一助となる活動を行っていただきたい。これは今まで直接交わることがあまり無かったYEGメンバーと学校がより奈良の未来・子供たちの未来を創造する為には必須事項であると考えられる。

[ここに入力]

実際の運用方法についての説明を以下に記載する。

- ① 奈良YEGのホームページから、各学校が「YEGバンク」を閲覧し、希望に沿った企業を選定
- ② 各学校から奈良YEG事務局へ問い合わせ（受付は事務局が行う）
- ③ 事務局より連絡を受けたメンバーから学校へ連絡（詳細の打ち合わせ）
- ④ 訪問または体験授業の実施

このような流れで実施予定だが、詳細については現在協議中である。

「YEGバンク」の運用は令和2年度開始を目標として進めている。

われわれ企業が今後事業の安定を図るためにも人口減少は望まない未来である。そこでわれわれが先頭に立って奈良市の学生の成長を促すだけでなく、地元企業を知り奈良市での就職を増やすことが、人口流出への歯止めをかける一歩を踏み出し、地域経済の発展へと寄与することを目論む。

【提言内容】

- ① YEGバンクデータ作成による行政との連携強化
 - YEGバンクの周知及び運用の協力
 - YEG活動への連携強化

[ここに入力]

介護・福祉	事業者	株式会社 カームネススマイル	
	事業所名	カームネススマイル	
	住所	〒631-0011 奈良県奈良市押熊町395番1	
	代表者	代表取締役 山品照美	講師写真
	担当者	向井（むかい）・吉見（よしみ）	
	TEL	0742-40-5373	
	FAX	0742-40-5374	
	ホームページ	http://www.calmness-smile.com	
	職務内容	<p>訪問介護事業</p> <p>利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることが出来るよう、訪問介護員が利用者の自宅を訪問し、食事、排泄、入浴などの介護（身体介護）や掃除、洗濯、買物、調理などの生活の支援（生活援助）を行います。</p>	
	企業写真	 	
受入可能体制	—訪問事業— ・ 体験事業		
可能時期（訪問事業）	月）1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12 曜日）月・火・水・木・金・土・日		
可能時期（体験学習）	月）1・ 2 ・ 3 ・4・5・6・7・8・9・10・11・12 曜日）月・ 火 ・水・ 木 ・金・土・日		
訪問事業内容			
体験事業内容	担当職員と利用者宅への同行訪問		
特記事項	<p>【体験学習】</p> <p>持ち物・・・ハンドタオル、ボールペン、スリッパを当日持参ください。</p>		

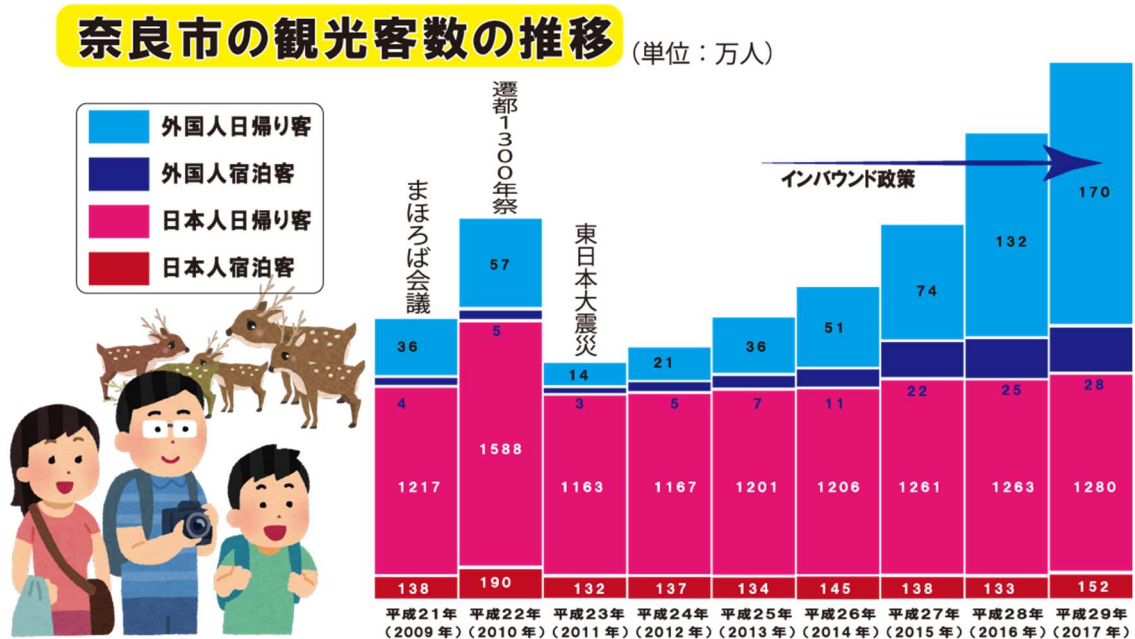
[ここに入力]

提言②

平城宮跡内の使用時の申請の一本化及びその他利便性の向上

現在奈良市には世界遺産登録されている資産に、国宝建造物があり敷地が史跡に指定されている資産が6つ（東大寺・興福寺・春日大社・元興寺・薬師寺・唐招提寺）また特別史跡・特別天然記念物に指定されている資産として2つ（平城宮跡・春日山原始林）の計8つで構成されている。これは世界遺産への推薦に必須である緩衝地帯だけでなく、奈良市では歴史的環境調整区域を独自に定め、環境保全と都市開発との調和を図る取り組みを行ってきたからである。歴史的環境調整区域は各緩衝地帯の間に設けられ、広域の景観を守っている。

このように奈良市が力を入れている分野は間違いなく観光地としての奈良の発信である。ここで過去10年の観光客の推移グラフを見ていただきたい。



平成23年東日本大震災時には国内の混乱の影響から大きく数を減らしているが、それ以降年々増加しており、年間1600万人以上の観光客が奈良を訪れている。ただ、宿泊客はその中でも割合として0.1%しかおらず、宿泊施設は増加しているが、数字として伸び悩んでいる状況である。また、観光客の日帰りと宿泊での消費金額は、日帰り観光客は4,731円なのに対し、宿泊の観光客は24,484円と約6倍近くの消費を逃していることとなる。

[ここに入力]

ここで奈良県の観光の状況を見てみるが、観光庁が発表した「訪日外国人消費動向調査」（平成28年確報値）では「旅行消費単価」が、奈良県は平均4,527円で、なんと全国最下位となっている。これに対し県では「奈良観光インバウンド観光戦略20年ビジョン」を立ち上げ、2023年には209万人だった2017年の約2倍の400万人の外国人観光客の目標を掲げている。その計画は、観光地としての奈良の魅力づくり「6つのA」として「アコモデーション（Accommodation）宿泊施設の質と量の充実」「アメニティ（Amenity）滞在環境の快適性の向上」「アピタイト（Appetite）食の魅力高上」「アクセス（Access）効率的な交通・道路体系の形成」「アトラクション（Attraction）自然・歴史・文化資源の保存・活用」「アミューズメント（Amusement）楽しい奈良の実現」を柱とし、それぞれの目標に向け色々な施策を打ち出している。その中で一番大きく分かりやすいものが「JWマリオットホテル奈良」の開業である。

その中で、奈良市では市も観光センターを約30年ぶりにリニューアル。観光客の滞在時間延長や宿泊客数増加を狙い、文化体験スペースやカフェを新設した。また、観光スポットでQRコードを読み込めば、11カ国語でそれぞれの歴史や情報を紹介する取り組みもスタート。奈良公園や薬師寺など市内の計50カ所以上が対象となっている。

同市観光戦略課も、東南アジアや香港、台湾など各国の旅行業界にPR。課題の宿泊客増加に向けて攻勢を強める。同課の担当者は「奈良は京都、大阪と大量消費できる2つの都市に囲まれ、空港も新幹線の駅もない。地元の商店街や宿泊業界とも連携しながら、他府県にない魅力、奈良で足を止めてもらう理由を外国人に発信していきたい」と力を込める。

そこで潤沢な観光資源がある中で「もう一つ立ち寄るスポットを形成することで滞在環境の快適性を向上し宿泊へと繋いでいくことができるのではないか」という考えの元、世界遺産の一つである平城宮跡の利活用というテーマに至った。

平城宮跡は奈良YEGとも関りが深く、全体事業として奈良市の多大な協力の元、「なら奈良まつり」を平城宮跡各所で平成23年より主催として開催。第1回から第5回までは朱雀門ひろば（改修前）第6回では第1次で、第7回は佐伯門東側広場で、そして第8回から第9回は再び朱雀門ひろば（改修後）にて行ってきた。そこで使用した感想をメンバーに調査を行った。

[ここに入力]

- ・第1次大極殿院前使用時は「使用しにくい」と「どちらでもない」で8割を占め、「申請の多さ」「車両規制の厳しさ」「アクセスの悪さ」などが多くの理由として挙げられた。
- ・佐伯門東側広場使用時でも「使用しにくい」と「どちらでもない」が8割を占め、「水はけの悪さ」「申請の多さ」「アクセスの悪さ」などが挙げられた。
- ・朱雀門ひろば（改修後）使用時では「使用しにくい」と「どちらでもない」で6割と改修を行い整備された面もあり数字としては減ったが、「アクセスの悪さ」「駐車場の不足」「申請の多さ」「インフラ整備が不十分」などの意見が挙げられた。

特に朱雀門ひろばをイベントスポットとして活用することが、平城宮跡の新しい魅力の創造に繋がるのだが、やはり他の場所も含め共通で不便に感じたことが「申請の多さ」「アクセスの悪さ」である。「申請の多さ」は使用時に提出する書類が多岐にわたる事は理解しているが、「必要書類申請の窓口を奈良市に一本化」し、イベント開催しやすくすることで、イベントスポットとしてより多くのイベントが開催されると思われる。さらに求められるのが「インフラ整備」「駐車場の不足」「アクセスの悪さ」となる。

【提言内容】

① 申請の一本化

- 管轄が国（国交省、文化庁）、県と分かれている申請を奈良市が取りまとめる

② インフラの整備

- 車両乗入れ、車両規制の緩和
- 電源の確保
- 杭打ちの許可（設営を行いやすく）
- 給排水の充実
- 駐車場の拡充

[ここに入力]

提言③

平城宮跡内新駅設置による新たな魅力創造並びに利便性の向上

前述のメンバーアンケートで一番多かった意見が「アクセスの悪さ」である。車両の場合駐車場が不足しており平日でも渋滞が非常に多い場所となっている。また大和西大寺駅から徒歩でアクセスする場合は30分近く必要となる。イベントを主催しているからこそ不便に感じるこの問題を解決する一番の方法を考えた際に「新駅の設置」が望まれる。イベント開催時の集客（県外からの来場者の増加）が可能であれば、より一層イベントの充実が図れると考える。

また現在、積水化学あとに新駅設置の件で奈良県・奈良市・近畿日本鉄道で意見交換を進めているが、歴史的な建造物をイメージした新駅を設置することで奈良の歴史を伝えながら、奈良の新しい魅力を発信することが可能になると考える。大阪・京都・神戸へのアクセスが良好であるが故、宿泊は県外という課題は残るが、訪問するスポットを新たに創造することで、イベントが開催されていなくても平城宮跡を訪れる人が増加すれば、奈良市での滞在時間の延長を呼び消費の増加に繋がると考える。

【提言内容】

① 新駅の設置

- 駅の建造物を奈良時代の歴史を感じるものにする（歴史的景観を損なわないようにする）ことで、SNS映えするなどの注目を集める。
- 平日は1時間に1回、土日祝は1時間に2回の停車などとし、生活のダイヤを乱さずに、停車の回数を少なくし価値を高める。
- 停車時間帯を10時から21時までとする。（平日に限り18時まで）

[ここに入力]

あとがき

奈良商工会議所青年部では平成22年度より行政との意見交換会（風会議）を開催して参りました。今年度の提言作成においても、意見交換会の中で奈良市の現状と課題、そして取り組んでいる施策を踏まえ、行政と共に奈良の未来を考え、我々がどのように関われば課題解決に繋がるかを話し合っ参りました。

奈良商工会議所青年部が行ってきた事業を通じて感じた事、日々の暮らしの中で見えてきた事など、奈良で暮らす青年経済人の目線で作成したこの提言書は、小さな一歩かもしれませんが、奈良の未来を変える大いなる一歩に繋がる事を願っております。

最後になりますが、この提言書を作成するにあたり各方面より多くの皆様方にご指導ご鞭撻を賜りましたこと、書面ではございますが厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

奈良商工会議所青年部
副会長 森田 住秀



奈良商工会議所青年部

[ここに入力]